

10.1.2. 間接起動型サービス

直接起動型サービスは、応答性の向上と引換えに、リソースを犠牲にしています。では、逆の場合はどうなるのでしょうか。つまり、**必要な時のみ呼び出される**サービスです。この場合、メリットとデメリットは当然ながら反転し、**リソースの消費はサービスが呼び出されている時のみに抑えられるというメリットは得られるものの、起動時の応答性が若干低下**します。このようなサービスのことを間接機動型サービスと呼びます。

規模の大きなサービスを間接機動させるとパフォーマンスの低下に直結するため、通常は小さなサービスに対して用いられています。

間接機動型サービスのために、接続を監視するスーパーサーバというものが用意されており、古くは `inetd` が、現在では `xinetd` が用いられています。

`xinetd` は、1つの設定ファイル (`/etc/xinetd.conf`) と、複数のファイルをおさめた一つのディレクトリ (`/etc/xinetd.d`) を利用します。全体の設定は `xinetd.conf` に、そして各サービスの設定は `/etc/xinetd.d` 以下の対応するファイルに記載します。以下は `rsync` サーバに対応する `/etc/xinetd.d/rsync` というファイルの一例です。

```
$ cat /etc/xinetd.d/rsync
# default: off
# description: The rsync server is a good addition to an ftp server,
as it ¥
#         allows crc checksumming etc.
service rsync
{
    disable = yes
    flags          = IPv6
    socket_type    = stream
    wait          = no
    user          = root
    server        = /usr/bin/rsync
    server_args    = --daemon
    log_on_failure += USERID
}
```

各種設定は“{・・・}”の中の部分に書かれており、特に“`disable`”に対する値が重要となります。これは「**無効にしますか?**」という設定なので、それに対する `yes` は「**無効にする**」という意味になります。つまり不要なサービスであれば、“`/etc/xinetd.d/`”以下の対応するファイルの `disable` 行を“`yes`”とすることで停止させることができます。

なお、現在の `xinetd` 経由の各サービスの起動状態は、`chkconfig` コマンドによる出力の後半に記載されます。

最近のディストリビューションではセキュリティを意識してか、多くのサービスは標準設定では起動しないようになっていますが、それでも起動してしまうサービスもあります。そのような（間接機動型の）サービスを停止させるには、上述のように“/etc/xinetd.d”以下の設定ファイルを直接書き換えればいいのですが、`chkconfig` コマンドを用いても同様の処理を行うことができます。

```
# /sbin/chkconfig rsync off
```

```
# chkconfig --list
...
xinetd ベースのサービス:
    chargin-dgram:  off
    chargin-stream: off
    cvs:           off
    daytime-dgram: off
...
```

上記のように直接起動型と同様に設定することで、対応する/etc/xinetd.d 以下のファイルに“`disable = yes`”という行が自動的に追加されます。

なお、設定終了後は `xinetd` サービスを再起動させておきましょう。設定が実際に反映されるのは、**xinetd サービスを起動した時のみ**だからです。